

宝塚市山本新池におけるヒドリガモとアメリカヒドリの相互認識

萩原一軌（兵庫県立宝塚北高等学校）

はじめに

筆者の毎朝の高校への登校は自転車で武庫川河川敷を遡上することから始まる。いつも通り自転車を漕いでいると、秋が深まるにつれ川に渡来するカモ類を見かけるようになった。中でも、朝から忙しなく草を採餌するヒドリガモに興味を持った。二つの近縁種「ヒドリガモ」と「アメリカヒドリ」が群れで滞在している宝塚市山本新池（以下山本新池）にて、両者及びその交雑種の採食時における優劣関係を調べるため、観察・検証を行った。

調査地・期間・対象

- ① 調査地 阪急電鉄宝塚線山本駅近傍の山本新池（図1）
- ② 調査期間 2024年12月23日～2025年2月2日
- ③ 調査対象 ヒドリガモ20個体とアメリカヒドリ1個体
および両者の交雑2個体から成る群れ（図2）を山本池周囲の舗道から観察した。

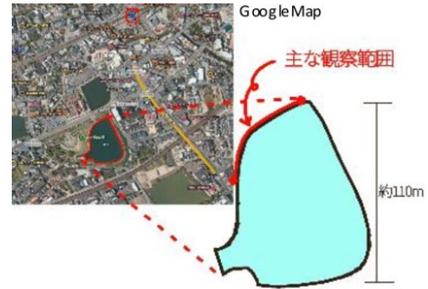


図1 調査地（宝塚市山本新池）

調査方法

調査対象の群れの水上での採食開始からの30分間を1単位として観察し、その間に発生した威嚇と追い回しによる攻撃行動のした回数、された回数をカウントする。観察は調査期間中に無作為に各4単位数行い、平均値を示した。



図2 左：ヒドリガモ（♂ ad win.） 中：アメリカヒドリ（♂ ad win.） 右：ヒドリガモ×アメリカヒドリの交雑個体（♂ ad win.）

結果

採食開始時からの攻撃行動（威嚇と追い回し）の回数を記録した（表1）。

表1 採食時における攻撃行動回数

観察日時	アメリカヒドリ		交雑個体		ヒドリガモ	
	♂1個体	♂2個体	♂10個体	♀10個体		
2024年12月23日 16:37 - 17:07	4	—	—	—		
12月24日 15:15 - 15:45	2	—	—	—		
16:32 - 17:02	1	—	—	—		
12月26日 16:02 - 16:32	6	—	—	—		
12月27日 15:45 - 16:15	—	0	—	—		
2025年 1月 4日 14:15 - 14:45	—	0	—	—		
16:45 - 17:15	—	0	—	—		
1月12日 14:45 - 15:15	—	0	—	—		
1月19日 14:15 - 14:45	—	—	0	—		
1月26日 14:15 - 14:45	—	—	0	—		
2月2日 12:00 - 12:30	—	—	1	—		
15:50 - 16:20	—	—	0	—		

観察者が筆者1名しかいなかったことと目視による観察であったため、攻撃時に攻撃する側と攻撃される側の種を同時に記録することは困難であった。また、ヒドリガモの雌個体の攻撃行動は観察できなかった。

考察

攻撃した回数と攻撃された回数を表2、表3で示す。結果の項で述べた通り、攻撃された側の記録を採ることが困難であったため表2と表3の攻撃・被攻撃の数は一致していない。

表2 攻撃した回数

	観察1	観察2	観察3	観察4	平均
アメリカヒドリ♂	4	2	1	6	3.25
交雑個体♂	0	1	0	0	0.25
ヒドリガモ♂	0	0	1	0	0.25

表3 攻撃された回数

	観察1	観察2	観察3	観察4	平均
アメリカヒドリ♂	1	0	0	0	0.25
交雑個体♂	0	0	0	0	0
ヒドリガモ♂	0	0	1	0	0.25

表2より、アメリカヒドリの攻撃行動(図3)が他種に比べて多く行われたことが分かる。そのため、アメリカヒドリはヒドリガモよりも優位性があると考えた。従って、採食時群れ内における優劣関係をアメリカヒドリ>交雑個体>ヒドリガモと判定した。

ただし、今回観察したアメリカヒドリの雄個体の習性として気性が荒いという可能性もあるため、異なる調査地でも実験を行う必要がある。

なお、表1で示した攻撃した回数の平均であるが、アメリカヒドリと交雑個体は各1個体であったので、各観察時(全4回)の合計数の平均を1個体あたりの平均攻撃回数として示している。また、ヒドリガモ雄は10個体であったため、各観察時の合計数の平均をさらに10で割り、1個体あたりの回数を示している。攻撃された回数の平均についても同様に計算している。

まとめ

採食時におけるアメリカヒドリは近縁種のヒドリガモおよび両者の交雑個体よりも優位である可能性を見出した。



図3 アメリカヒドリの攻撃行動

今後の展望

- ・アメリカヒドリ雌個体の観察を行いたい。
山本新池以外の筆者の観察範囲においてアメリカヒドリの雄に比べて雌の渡来数は極めて少なかったため、雌個体の生息地の情報が欲しい。
- ・今回の調査地にいた交雑個体はヒドリガモの特徴が多く認められた。アメリカヒドリの特徴を多く持つ交雑個体の観察をいたい。
- ・他のフィールドに生息するアメリカヒドリの観察を行い、一般的な優劣を確かめたい。筆者は高校生のため行くことができる範囲が限られ、山本新池のみアメリカヒドリの雌が渡来していた。
- ・観察回数を増やし、信憑性の高い研究結果を出せるようにしたい。先行研究の調査を深めたい。

最後に

今回の調査地の山本新池は都市につくられた人工的な小さな池である。しかし、たくさんのカモ類が渡来し越冬していた。観察していて、越冬するカモ類に加えて渡りの休息として一時的に飛来した冬鳥も見られ、水鳥に限らず都市公園として「目的地までの休憩所」という役割も担っていることを改めて実感した。今回の探究は不十分な点もあると思うが、それを踏まえ次回に生かしたいと思う。